

The tip of an

ICeberg

アイシーバーグ
サクラニュースレター

No.2

春号

The tip of an ICeberg=氷山の一角

感染制御は見える部分だけでなく、見えない部分に多くの課題があることの象徴です



| 2016 | Spring |

Contents

第44回 日本医療福祉設備学会 ランチョンセミナーを共催

感染制御トピック 厄介なノロウイルスの消毒

病院“あるある”事例

スタッフ教育と作業品質について

サクラとびあの思い

今年も様々な企画をスタンバイ中。ぜひ、ご来場・ご活用ください!

出展・セミナー情報

第44回 日本医療福祉設備学会 ランチョンセミナーを共催

開催日:2015年11月26日(木)

演題:「医療機器再生プロセスにおけるピットフォール
～リスクを低減させるための対策事例のご紹介～」

座長:大阪大学医学部附属病院 病院教授 高階雅紀先生

講師:サクラ 精機 学術部部長 大平正樹

エントラルメディカル社 代表取締役 フローリス・リナ

医療現場の滅菌供給部門は、回収された使用済み医療機器を、各プロセスを通じ最終的に品質を担保した状態で、再生し供給する重要な責務を負っています。その一連の各行程にはピットフォールが潜んでおり、それらを明確に対処することでより安全に再生医療機器の供給を行えることになります。

本セミナーでは、滅菌供給部門の器材再生処理のプロセスの中で考えられるピットフォールにスポットを当てて解説を行い、海外事情の紹介を交えた上で対処方法の提案を行いました。まず、大平講師より滅菌供給部門の再生処理の概要、流れを説明したあとに、フローリス・リナ先生より「点検」作業における海外事例を踏まえたピットフォールの提議、さらにエントラルメディカル社の絶縁テスター、光量テスターを用いることにより良否判定ができる提案を行っていただきました。

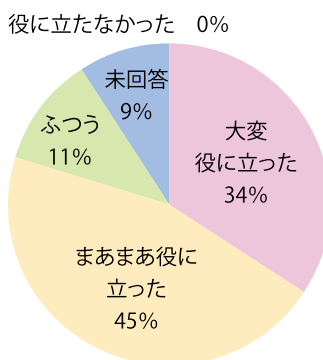
セミナーは、高階雅紀先生のフレンドリーな進行により、終始なごやかな雰囲気で行われました。



約60名のお客様にご参加いただいた今回のセミナーは、アンケート調査によると約80%のお客様に「役に立つセミナーであった」という回答を頂き、成功裏に終了することができました。さらに、併設のHOSPEX Japan2015において絶縁テスター、光量テスター実機の出展も行い、多数のお客様にご覧いただくことができました。

参加者アンケート結果より

Q 今回のセミナーはいかがでしたか？



【ご感想】

●実証ビデオを利用した説明がわかりやすかった。医療の安全を確保するためには、それぞれの器械を利用する必要性を感じた。

●限られた時間内にもかかわらず、大変分かりやすくまた聞き取りやすい講義でした。

紹介された多くの便利なグッズにも、大変興味が持てました。

●サクラ精機さんの中材室一連の業務の流れが理解しやすかった。

●オートクレープの中の映像が見られ、行程中の状況が理解できた。

「よくある質問」から学べる

病院

あるある

事例

スタッフ教育と作業品質について

滅菌供給部門が供給する器材等は、使用されるあらゆる場面において確実に『使ってもよい』状態に処理されている必要があります。洗浄滅菌部門も機械化は進んではいますが、手作業も含め人の手や知識が介在しない工程は一つもありません。

『使ってもよい』器材を確実に供給するという使命を全うするためには、回収から始まり供給に至る一連の工程をひとつずつ確実に積み上げていくことでのみ成立しますから、そこに関わる全てのスタッフも確実に工程を理解し手順書を遵守することが必須となります。すべてのスタッフも、品質を構成するとても重要な要素であるということですね。

日本の場合、専門教育機関がありませんので実際には業務と並行して現場で教育が行われることとなりますが、座学の時

間を組み入れるのに苦労されるのではないのでしょうか。ここで詳細に述べることは難しいのですが、大枠について記してみましよう。あくまでも一例ですが。



I. 自らが働く場所・環境・役割を知るとともに、敵を知り尽くすこと

1. 医療とは、病院とは、滅菌供給部門とは、
2. 滅菌供給部門のスタッフとは、何？
3. 法律、規制、規則等

II. 『ヒト』について

1. ヒトの解剖生理について

厄介なノロウイルスの消毒

東京医療保健大学大学院 感染制御学 教授 大久保 憲

世間では言われているように、ノロウイルスにアルコールは効かないのでしょうか？

確かに、ノロウイルスは構造的にノンエンベロープであり、カプシド*の疎水性からエタノールとの親和性が乏しく抵抗性傾向を示します。

しかし、アルコールが効きにくいウイルスはあっても効かないというウイルスは聞いたことがありません。かつて、スローウイルスがアルコールに抵抗性であると言われた時期がありましたが、その一部は実はプリオンであったのです。

ヒトのノロウイルスの厄介なところは、培養できないことです。アルコールが効くか、何℃で不活性化するかは正確なデータがありません。私たちは、代替ウイルス (surrogate virus) を利用してその効果を推測するしかありません。これまでのネコカリシウイルスを使用した実験では、アルコールが効かずに酸が効くという結果でした。最近になってマウスノロウイルスの実験では、アルコールが効くとの結論でした。これらの結果をもとに「酸性のアルコール」が市販されるようになりました。

厚生労働省には「ノロウイルスQ&A」検討会があり、ノロウイルス対策に関する解説をしています。2015年の春に会議が開催され、専門委員からは、実験に用いられた代替ウイルスとヒトのノロウイルスの相同性の証明が必要であるとか、一定の

効果が認められていると記載できる根拠が不明であるとか、諸外国ではヒトのノロウイルスに対する手指消毒薬としてアルコールの使用を妨げてはいないが、流水と石けんによる手洗いの補完的使用に留めるべきだなどと、アルコールの有効性を肯定する意見は少数でした。

新型インフルエンザ (AH1N1) 2009年のパンデミックの折に、国内でアルコール擦式消毒薬の使用が爆発的に増えた影響で、その年のノロウイルス胃腸炎事例が減少した事実は疫学的証明になったはずですが、

しばらくは、堂々とアルコールを推奨することはできませんが、ヒトのB細胞を用いたノロウイルスG II.4 Sydney株の培養法が報告されたこともあり、ノロウイルスに対する消毒効果を判定できる方法が確立して、アルコールの有効性が認められる日も近いのではないのでしょうか。

※カプシド:ウイルスのコア核酸を包んでいる外殻の部分



供給する物が使われる『ヒト』を知り、再生処理サイクルを理解する

III. 『微生物』について

1. 敵を知りヒトを守る方法を知る
2. そこから滅菌や消毒の原則を知る

IV. 処理する医療機器・器材の材質や構造と使用方法について

1. 処理方法の根幹にかかわる重要な知識を得る
2. 使われ方を理解し、『使ってもよい』器材に仕上げる技術を持つ

V. 除染について

1. 自らを、あるいは他者を感染から守る方法を理解する
2. 除去すべき対象と目的を理解する
3. そのために使用する道具 (装置、用具、薬剤等) について

VI. 『使ってもよい』製品に仕上げる準備【メンテナンスと包装】

1. 潤滑処理、点検 (清浄度と破損・劣化、機能性)
2. 『使うまで』微生物学および物理的品質を維持する方法を実践できる

VII. 最終処理である滅菌と消毒について

1. 準備の整った製品の最終処理について理解し、確実に選択・実践できる
2. 使用する装置と滅菌剤、消毒剤に対する正確な理解と実践

3. 施設における滅菌保証について

4. 法律、規制について

VIII. 保管、搬送、在庫管理について

1. 医療安全・感染管理に必要な方法を実践する
2. 滅菌供給部門における経済性について

作業あるいは操作・検査するスタッフ自身も品質を左右する極めて重要な要素ですから、品質保証 (無菌性・機能性) には作業内容と教育段階がリンクしていることが必須要件となります。供給するすべての処理製品に関わる全てのヒトに対する安全を保証することは部門の使命のひとつでもあり、医療職としてだけでなく、再生処理製品を造るスペシャリストの存在がその品質を支えているということですね。

「病院“あるある”事例」コーナー担当の大平です。このコーナーでは、研修会や講演会、そして病院内でよくあるご質問の中から毎回トピックスを取り上げて解説します。「こんなことを聞いてみたい」「こんな疑問に答えてほしい」といったテーマがあれば、編集部までお知らせください。ご質問はメールでお気軽に！
メールアドレス iceberg@sakurajp.com



サクラとぴあ の 思い

今年も様々な企画をスタンバイ中。
ぜひ、ご来場・ご活用ください！

ヘルスケア事業本部 本部長 宮下芳文



サクラとぴあ

お客様と共に新しい医療空間を考え、最新情報を提供できる場、「サクラとぴあ」。2014年12月の開設から1年が経ち、国内外の多くのお客様にご好評をいただいています。

2016年1月現在までに、30を超える施設の方に3Dシミュレーター・1/20サイズのミニチュア模型を用いたレイアウト検討をご活用いただき、「自分で自由に配置できる模型は、非常に有効なツールだ」等のご感想を頂戴しています。

昨年の4月・11月には、弊社長野の教育センターとのコラボ

レーション研修会を施設の方々を対象に実施しました。少人数制で講師との距離が近いため、「日常業務の悩みを相談しやすかった」等のご意見を伺っています。

今年の5月～8月には、特定非営利活動法人日本感染管理支援協会の土井英史先生をお招きして、「中央材料室における再生プロセス全般」について全4回にわたるセミナーを予定しています。その他、今後も様々な企画を検討しています。皆様のご来場をスタッフ一同お待ちしております。

新コンテンツ追加！

【コンセプトムービー】

医療機器再生プロセス全般における近未来コンセプトムービーです。



【AR】

カタログに専用ソフトをインストールしたタブレットをかざすと、製品を立体的にご覧いただけます。



出展・セミナー情報

弊社主催のセミナー、学会での発表予定や今後の展示会、全国の研究会での出展予定です。弊社Webサイトの「研修・セミナー・展示会」ページもあわせてご覧ください。

■第31回 日本環境感染学会

2016年2月19日(金)・20日(土)

国立京都国際会館・
グランドプリンスホテル京都
会長：一山智

京都大学大学院

医学研究科臨床病態検査学

■第2回 関西病院イノベーション展

2016年2月24日(水)～26日(金)

インテックス大阪

主催：リードエグジジションジャパン(株)

■メディカルショー・ジャパン&

ビジネスエキスポ2016

2016年6月23日(木)～25日(土)

大阪国際会議場(グランキューブ大阪)

主催：一般社団法人日本医療機器学会

編集後記

まだまだ寒さが厳しい日が続きますね。冬の乾燥でハンドクリームが手放せない毎日です。最近のお気に入りハチミツの香りのハンドクリームで、このあま～い香りにいつも癒されています。

さて、今回は東京医療保健大学大学院の大久保憲先生より、

ノロウイルスについてのお話をいただきました。いかがでしたか？

ノロウイルスだけでなく、インフルエンザにもまだまだ気を付けてはいけないうちです。しっかりと予防をして、元気にこの冬を越えましょう！

それでは、また次号もご期待ください。



サクラ精機株式会社

編集・発行：サクラ精機株式会社 メディカル営業本部

〒104-0033 東京都中央区新川1-25-12 新川フロンティアビル

ホームページ <http://www.sakurajp.com>

サクラニューズレター [Ceberg] アイシーバーク

No.2 2016年2月19日発行